



令和7年8月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

マダイ中間育成終了、放流へ

5月下旬から中間育成していたマダイの稚魚の計数作業を7月1日に熱海市網代で、11日に西伊豆町田子で行いました。

今年は網代、田子両地区で病気の発生が見られましたが、いずれも飼育担当者による迅速な対応によってへい死がおさえられました。計数時の生き残り率は網代で58%、田子で80%でした（過去5年の平均72%）。計数時のマダイの尾叉長は網代で63.4mm、田子で70.4mmと、放流に適した大きさ（60mm）以上にまで成長したため、伊豆各地先の漁港内等の適地に放流されました。放流作業には地域の子供たちも参加し、地域の活性化につながる活動になっていると感じます。

解説：中間育成：放流用の稚魚を放流に適した大きさになるまで生簀で飼育する工程。波の穏やかな漁港内で行われる。



計数作業の様子（網代）



尾叉長測定の様子（網代）



放流魚を渡す様子（田子）



放流の様子（稲取）

磯焼け対策としてカジメを移植

伊豆半島東部から南部で見られていた大型の海藻カジメの大規模な磯焼けによりアワビやサザエが減少しています。

昨年度から磯焼け対策として漁業者を中心としたカジメの移植活動を実施しています。

今回、事前に伊豆分場からの募集に応じた7地区で10cm程度のカジメをコンクリートの板等に取り付け、海藻を食べる魚の食害を防ぐ網等を施した上で水中に設置しました。

今後、移植したカジメが順調に生育することを期待しています。

←移植作業（河津町浜）



解説：カジメは茶色の海藻で、高さ1mほどになる。アワビやサザエの重要な餌になっている。カジメが衰退し、アワビの痩せや斃死などの被害が生じている。

南伊豆でイセエビ幼生の調査を開始

近年、伊豆半島沿岸でイセエビの漁獲量が減少しています。

イセエビ漁獲量減少の要因について伊豆漁協南伊豆支所から相談を受け、まずできることとしてイセエビのプエルルス幼生が来遊しているか確認してみることにしました。

専用の採集器具を用いることによりイセエビ幼生を採集できることが分かっています。

今後、定期的に採集器具を引き上げてイセエビ幼生の来遊状況を調査します。



プエルルス幼生

←採集器具を用いた調査の様子

8月の予定 ●潜水調査（稲取、菖蒲沢、白浜） ●キンメダイ親魚採捕調査 ●カジメ移植の実施（5日）
●県民の日イベント（8日） ●インターンシップ受け入れ（5～8日） ●相模湾漁海況研究協議会（18日）
●県漁業士会役員会（22日） ●技術連絡協議会（28日）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu>

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。